

琵琶湖河川事務所では、野洲川の自然再生事業の一つである『野洲川河口部ヨシ帯再生』において、地域のみなさんとの連携により持続的な維持管理ができないか検討しています。

今回、社会実験として、地域の団体や企業、河川環境保全モニターの協力の下、ヨシ刈り及びヨシ移植を行い、地域連携による維持管理に向けた「第一歩」を踏み出しました。

当日は雨予報でしたが、参加者で力を合わせた結果、約1000㎡のヨシ刈り、30株のヨシ移植、8株のヤナギ伐採を実施しました。この取り組みがヨシの再生を促し、良好なヨシ群落に成長することにより、魚類の繁殖や成育の場としての機能が向上し、生物多様な水辺空間の保全と再生につながることを期待しています。

【概要】

- 日時：令和6年1月20日（土） 9:30～11:30
- 場所：野洲川河口部（右岸・左岸）
- 参加者：一般参加者（企業含む） 24名
地域団体（淡海を守る釣り人の会） 7名
河川環境保全モニター（野洲川） 1名
事務所職員（受注者含む） 13名

- 実施内容
・右岸（上流と下流）
ヨシを刈り取る
ヤナギの伐採・再発芽抑制
- ・左岸
ヨシを移植する

○実施場所



～感想～

<ヨシ移植・ヨシ刈り作業>

ヨシ帯再生に参加させていただきました。
ヨシ移植では、大きな塊の根と1株の小さい根があり2つに成長の差はあるのか気になりました。
ヨシ刈りの方では、刈りながらゴミが沢山出てきて普段拾うことの出来ないところはこのような機会がないとゴミを無くすことができないことにもどかしく思いました。
また、参加させていただけることができましたら喜んで足運びます。（参加学生）

<ヨシ刈り作業>

未経験の「ヨシ移植」「ヤナギ伐採」に惹かれて参加しました。
今まで手入れされていなかったヨシ原で「春に良い新芽が出ますように！」と祈りながら雑草とヨシを刈り取りました。ヨシの活用が進むよう関係者のみなさまとアイデアを出していけたらと思います。（参加企業）

<ヤナギ伐採作業（右岸下流）>

下流側は明富中学校の2人が頑張ってくれたおかげで、3株のヤナギを処理することができました。参加者からは「ヤナギを切るのはなんのため？」という質問もあり、ヤナギ処理を行う意義について正しい情報を発信する良い機会となったと思います。（地域団体）



集合写真



【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局 琵琶湖河川事務所 流域治水課
〒520-2279 大津市黒津4-5-1 TEL 077-546-0867



Mother Lake Goals

変えよう、あなたと私から